

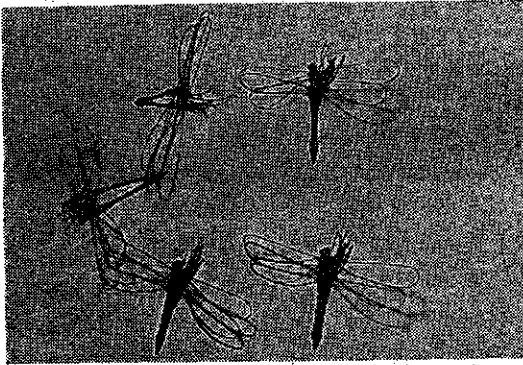
部・同好会の歴史

竹細工同好会

4年前、山本哲朗先生（現高梁高校）により創設された。

竹トンボや水鉄砲などの玩具を作ったり、竹カゴなどの生活用具を作ったりするクラブは他校にもあるようですが、私達は竹の幹や枝を使ってクモ、カニ、昆虫などの小動物を作ることを主な目標にしています。これは、竹の枝が昆虫の足に非常によく似ているというアイデアから生まれたもので、現在のレパートリーは30種以上にのぼります。

部員は毎年ほぼ10人程度と小さいのですが、部室兼作業場が工業化学科の薬品庫に間借りしたものでタタミ2枚がやっと敷ける程度の広さしかないため、この程度の部員でも多いくらいです。ただ、平素の活動は何人かの部員が思い思いの作品を作ったり、雑談する程度なので、狭くてもいいのですが、文化祭、創作展の前などは部員が総力をあげて取り組むときなど、作業場に入れきれず廊下に出て作業する状態です。



私達の発表の場は文化祭と創作展です。文化祭では今までの技術でできる作品の展示や、玩具の販売、小学生相手の手作りコーナーなどとして、比較的好評を得ています。創作展では私達の技術の向上、レパートリーを広げることを目標にして、毎回何か新しいことに挑戦して来ました。

文化祭や創作展の作品は東京の玉川学園、倉敷の少年自然の家など各方面に寄贈して、大切に展示してもらっています。また、私達の活動が新聞やテレビなどで広く報道された関係からか、川崎製鉄での川鉄まつりや、水島文化センターなどで子供の手作り教室的な集まりの講師や手伝いなど

にも何回か呼ばれました。こうした対外的な活動では子供から学ぶことも多く、私達の今後の活動の糧になっています。

私達は文化祭、創作展、対外的な各種の活動での成功は大きな楽しみです。そうした活動への取り組み、平素の活動を通して培われる部員同志の交わり、仲間意識の向上などの方をより大切にして、今後とも活動を続けたいと思っています。

（顧問 久野記）